

ぼう ちょう しゃ 傍聴者の声

傍聴者数のべ39人

傍聴に行ったことのない人や同年代の人にも参加してほしい



八谷 和泉 (室)

初めての傍聴でしたが、最初は本会議や委員会とは何なのか、何が話し合われているのか全く無知の状態でした。

しかし、傍聴すると生活に大きく関わること、身近に起こっている問題など大津町民なら知っておくべき内容が沢山ありました。学童保育の現状、英語検定の受験料を補助した効果、30年度から始まるペアレントプログラム事業の概要といった、主に文教厚生常任委員会の内容を多く学びました。用語が分からなかったり自分の知識が浅くなかなか理解できない部分もありましたが、子育てや教育面での町政に興味を持ったのは確かです。

私と同じように傍聴をきっかけに何かに関心を持ちたりまた議会へのイメージが変わる人もいるかもしれません。日にちや時間帯が厳しいこともありますが、行ったことのない人や同年代の人にも参加してほしいし、私自身もう一度傍聴したいと思っています。

環境の違いで学べない子どもが一人でも減る対策を



清原 彩世 (美咲野)

ちょうど春休みで、母に誘われたので、初めて傍聴に行きました。最初感じたことは、大人も子どもも、考えていることや、やりたいと思っていることは、あまり変わらないんだなということでした。

はじめのことなど、活発に議論されていたのを見て、中学生の時に生徒会などで話し合ったことを思い出しました。しかし議会では、私たち子どもの話し合いとは違い、議論の上に具体的な案や対策が講じられていたことがとても勉強になりました。ただ、それとは逆に、私たち子どもの現状、実態が、あまり大人に伝わっていないと感じました。

特に、英語検定の受験料補助についての話は、私が実感していることとは異なるなど思いました。今後、補助金申請が年間どのくらいあるのか等、報告を聞きたいと思いました。それから、放課後学習会、地域未来塾などの学習支援についても、もっと活発に行って欲しいと思いました。経済的に、学習塾に通えない子どももいます。環境の違いで学びたくても学べない子どもが、1人でも減るような対策をお願いしたいと思います。

○議会への提言・疑問・質問などをお寄せください。

○今回の議会だよりで関心のある記事や感想があればお書きください。また、もっと読みたくなるような「アイディア」があればお寄せください。